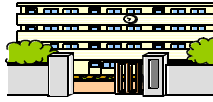


くるさきレター 笑顔



鳴門市 黒崎小学校 校長 猪子 研司
No.6 令和3年10月1日(金)

今年度もはやいもので半分が過ぎ、ちょうど折り返し地点となります。本当に1年間は早いものです。子どもたちは日々成長しています。できなかったことができるようになっていきます。少しの成長や変化をできる限り見逃さないようにしていきたいものです。また、そのような視点を学校と家庭で共有していくことで、よりよい成長を支えることができるのではないかと思います。さらに、2学期は新型コロナウイルス感染症と共存しながら、どのような教育活動が進められるのかを考えながら取り組んでまいります。引き続き、本校教育活動にご支援・ご協力をお願いします。



通知表をお渡しします

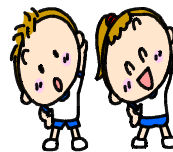


10月11日(月)に1学期が修了します。子どもたちは、1学期の「通知表」を手に入れます。この通知表は、お子様の学校における学習の成果や生活の様子を保護者の皆様にお知らせするもので、お子様の成長の様子を知り、認め励ます資料となるものです。子どもにとっては、自分自身を振り返り、進歩の状況や長所、今後のめあてや努力点を見つける材料となります。また、教師にとっても、一人ひとりの子どもをより深く理解するよい機会ともなります。この通知表が、子どもの「よさ」を大切にするとともに、学校と家庭が協力し合って子どもたちのよりよい成長を見守っていく基盤となることを願っています。そこで次のことに留意されて、お子様と一緒にご覧ください。

- 1 記載されている内容に十分目を通してください。お子様のよい点をしっかりほめ、さらに励ます手がかりにしてください。
- 2 それぞれの評価は、お子様の評価で他のお子様と比較したものではありません。過度な競争心にかかられたり、自信を失ったりすることのないようにご配慮ください。



運動会に向けて



10月23日の運動会に向けて、練習も始まりました。教職員は、感染症対策を講じながら、できるだけ子どもたちの活躍の場を作りたいと、種目もいろいろと工夫を重ねています。子どもたちにとって、運動会は心に残る貴重な体験だと思います。私自身、何十年も前に自分が運動会で走ったこと、ダンスしたこと等が思い出されます。親の立場になると、我が子がダンスする姿、最高学年として1年生のお世話をする姿等、心に深く残っています。人々の歓声、空気、その中で自分の体を動かす・・・五感で感じ、学べる行事だと思います。今年度の運動会もコロナ禍の中、様々な制限のもと実施いたしますが、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

～裏面に続く～

- 日 時 令和3年10月23日(土) 午前8時45分～12時頃
※中止の場合は、24日(日)に順延、以降30日(土)、31日(日)、
11月1日(月)のように延期・順延となります。

■場 所 黒崎小学校運動場

- とくしまアラートがステージⅣ「特定警戒」に引き上げられた場合は、
教育委員会からの通知により、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため
無観客での開催となります。その場合、運動会前日までにうさぎメー
ル等でお知らせします。

運動会についての詳細は、令和3年9月27日付け「令和3年度 黒崎幼・小
秋季運動会(ご案内)および下校時刻の変更について」をご覧ください。



子どもの読書活動について



「子どもの読書活動の推進に関する法律」をご存知でしょうか。この法律の基本理念は、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」です。子どもは本から様々な影響を受けます。言葉、感性、表現力、創造力などです。更に、始めは物語の主人公と自分とを重ねて読書していた子どもも、しだいに主人公と自分を分けて物語を客観的に読めるようになります。このような経験を経て、子どもは抽象的にものごとを考える力や感動する力など、人としてよりよく生きるための様々な力を身に付けていきます。また、子どもは発達・成長する過程で様々な体験をしています。その体験を読書で得た知識・経験と照らし合わせたり、比べたり、重ねたりすることを通じて、自分の経験が社会の中でどのような意味をもつのか理解していきます。そして、子どもが昔から読み継がれ語り継がれてきた物語に親しむことは、伝統的な文化遺産を継承していくことにもなります。

黒崎小学校においては、学校図書館の図書を整備に当たったり、学校でのあらゆる機会を通して、子どもが読書に親しむ機会を設けたりしています。ご家庭においてもご家庭の中でお子さんが読書に親しむようにしていただければと考えております。最近では、「家読(うちどく)」という言葉が出てきています。「家で読書をする」という意味です。低学年には「保護者の方による読み聞かせ」でもよいと思います。中学年では「保護者と一緒に同じ本を読み合う」ことでもよいでしょう。高学年になったら「保護者も子どもも本を読む時間を決めて読書をする」という形でもよいと思います。どうぞ、皆様方のお子さんが、自ら読書をする習慣が付くように「家読」に取り組んでいただけるとありがたいと思います。

